令和8年度全国学力・学習状況調査　北竜町内の状況及び今後の改善方策

小学校数:1校、児童数:6人　中学校数:1校、生徒数:10人

○ 教科に関する調査の状況

【平均正答率・平均IRTスコア】

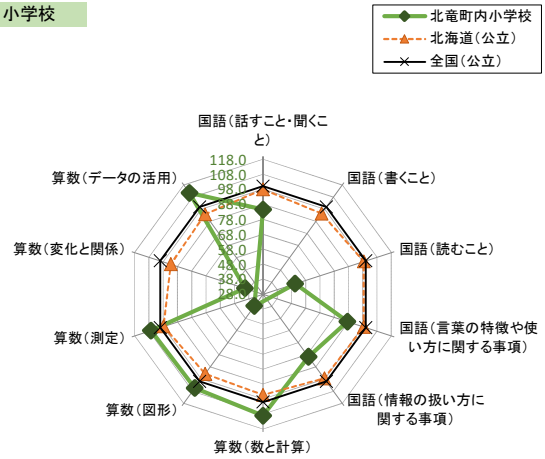
※中学校英語は4技能（聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと）の平均IRTスコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
北竜町	44	57	55	48	482
北海道（公立）	60.0	54.0	63.0	55.0	490
全国（公立）	60.9	56.4	63.9	57.0	499

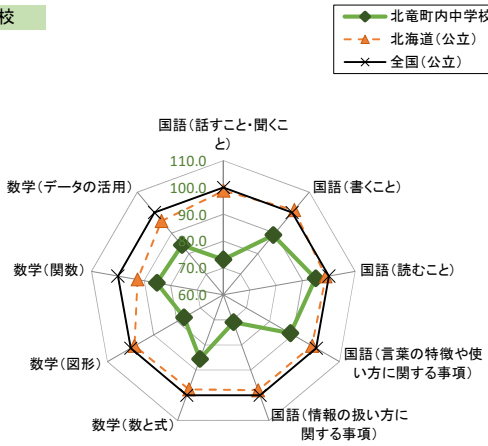
【レーダーチャート】

・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

小学校

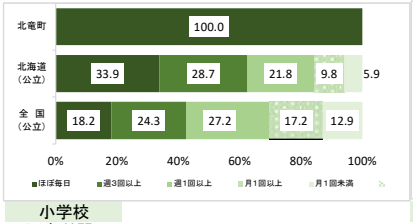


中学校

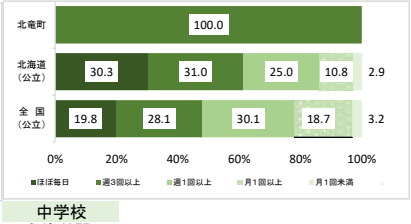


○ 質問調査の状況

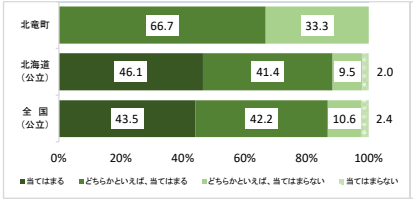
小学校
＜学校質問＞
児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



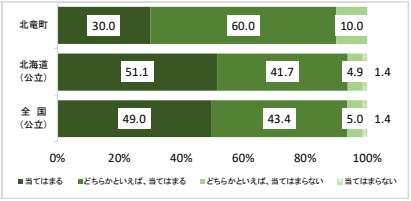
中学校
＜学校質問＞
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



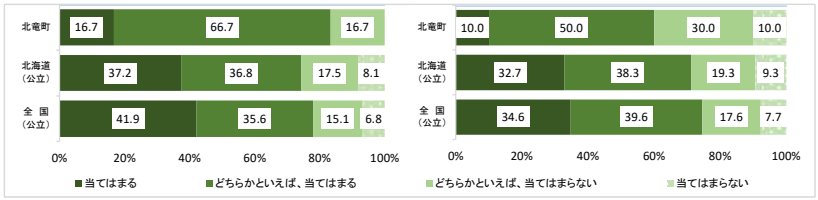
小学校
＜児童質問＞
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



中学校
＜生徒質問＞
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



小学校
＜児童生徒質問＞
算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



中学校

○ 調査結果の分析

・小・中学校ともにICT機器の活用が定着している。小学校では話し合いや算数の理解に関する肯定的な回答が全国及び全道を上回っている。一方、中学校では、数学の授業内容がわかるとする肯定的な回答が60%にとどまり、理解の実感に課題が見られる。

・小学校では授業でICT機器を「ほぼ毎日」使用しており、中学校では、「週3回以上」使用していることから全国及び全道を上回っている。また、小学校では全ての児童が話し合いを通した学びを肯定的に捉えている。中学校でも、90%の生徒が学級活動でお互いの意見を尊重しながら課題の解決に取り組んでいると回答している。

・算数・数学の授業で、児童生徒が理解への自信を高められるようにすることが課題である。特に中学校では、授業内容の理解に困難を感じている生徒への支援が必要である。また、学級活動では、互いの意見を尊重しながら課題の解決に取り組む姿勢を大切にしていく。

○ 今後の改善方策

・一人ひとりのつまずきを把握し、個々に応じた指導の充実を支援する。ICT支援員を活用し、教員のICT活用に関する研修や授業支援を通して、授業改善のバックアップをしていく。また、学校間で効果的な実践を共有し、町全体の教育の質の向上を図る。